

平成30年度
学校関係者評価報告書
(第1回)

平成30年5月30日(水)

学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

平成30年度 第1回「学校関係者評価委員会」報告について

鹿児島情報ビジネス公務員専門学校では、平成26年度より、教育内容や日々の学校運営に関する業務について、更なる改善、向上を図るため、自己点検・評価に取り組み、本校のホームページ上で公表いたしております。

平成30年度につきましても、第1回「学校関係者評価委員会」を開催し、本校に関連する企業・医療機関・卒業生および保護者の方々に、本校の教育活動や学校運営に関して貴重なご意見・提言等をいただき、今後の学校運営や評価の在り方について、更なる改善を図るため努力いたしております。評価委員の皆様には、あらためて感謝申し上げます。

今回の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界・地域・学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同、鋭意努力いたす所存でございます。

引き続き、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成30年7月

学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校
校長 熊谷 朋子

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「平成29年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等11名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）および教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

(順不同・敬称略)

| 評価委員 | 会社（企業）名 | 役職名 | 任期 | 備考 |
|--------|-------------------------------------|-------------|------------|--------------------------------------|
| 久永 忠範 | 一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会 | 副会長兼理事 | H31. 3. 31 | 株式会社 フォーエバー 代表取締役 |
| 上野 正範 | 南日本ソフトウェア株式会社 | 代表取締役 | H31. 3. 31 | |
| 吉崎 昌幸 | 有限会社ビーライン | 代表取締役 社長 | H31. 3. 31 | |
| 小森 昌章 | 特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会 | 理事 | H31. 3. 31 | 株式会社 小森昌章 建築設計事務所 代表取締役 |
| 竹下 とみお | 協業組合ドゥ・アート | 代表理事 | H31. 3. 31 | |
| 押井 啓一 | 南九州税理士会鹿児島県連合会 | 会長 | H31. 3. 31 | 税理士法人 押井会計代表社員 |
| 川衛 斉 | 株式会社スリーイン 九電工グループ ホテルアービック鹿児島 | 支配人 | H31. 3. 31 | |
| 萬 英治 | 鹿児島医療経営研究会（KMM） | 顧問 | H31. 3. 31 | 社会医療法人緑泉会 理事長室 兼 地域包括事業部 部長 |
| 馬場 俊孝 | 医療法人 上原クリニック | 人事部長 | H31. 3. 31 | |
| 前平 秀康 | 株式会社 土佐屋 | 総務部長 | H31. 3. 31 | 卒業生 |
| 中嶋 千亜紀 | | | H31. 3. 31 | 保護者 |

3. 委員会次第（概要）

（1）開会

（2）本部長挨拶

本部長より、委員会開会の挨拶を行った。

（3）学校長挨拶

校長から、本委員会の目的などについて説明を行った。

（4）委員紹介

各委員の紹介を行った。

（5）委員長選任

医療法人上原クリニック 馬場俊孝委員を委員長に選出し、議長とした。

（6）平成29年度 学校自己点検評価報告

校長より、評価の変更の項目および、今後の取り組みについて報告を行った。

（7）討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

（8）閉会

4. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

（前平委員）

○卒業生の立場からすると、卒業後、学校とのかかわりが薄れていく中で、ホームページなどが充実していくと卒業生同士のつながりや在校生への就職支援などを行っていけると思う。

（萬委員）

○評価欄の記載方法として、口頭だけではなく評価の動きがわかるような記載の方がわかりやすい。また、就職した学生の卒業後の就業状況（離職率）を情報開示することで、KBCCの学生を今後採用していく企業にとって、採用の際の貴重な情報源になると思う。

また、防火防災以外のリスクマネジメント、たとえば組織としての危機管理の体制についての項目を学校運営の評価項目に追加できないのか。

（校長）

○現在は専門学校としての組織が基準としている項目を利用しているが、一条校が基準の、専門学校にそぐわない評価項目自体も含めて見直す時期に来ているとは思う。

（萬委員）

○最近、危機管理室を立ち上げ、突発的の案件や訴訟問題、セクハラ・パワハラなど組織の中で起こりうることの予防や起こった際にどのように対処していくのか対策を行っているが、そういったことが今後は大事になっていくと思う。

（委員長）

○萬委員から出た「離職率」だが、求人側も新卒求人をハローワークに出す場合、3年以内の離職者数を提出するよう求められる。医療機関のような離職率の高い業界でも公開しなければならなくなっている。

(川衛委員)

○萬委員と同じく前回・前々回の各項目を並べて見られると評価の上がり具合などが分かりやすいと思う。

また、評価項目が古く思え、時代にそぐわないものになっているので改定を行えるのなら行ってほしい。改定の時期についても定期的（4年後・10年後）に行えるものなのか。

(校長)

○現状、文科省の方針変更などで項目の見直し・追加がある際に改定を行っている。また、他校との比較を行いやすくするため他校と共通した点検項目の点検表を使っている。委員会を重ねることで、今後、点検項目のチェックも行っていく、項目の見直しおよび本校独自の自己点検項目などの差し替えも必要であると思う。

(川衛委員)

○7-5「定期的に防災訓練を実施しているか。」で評価4となっているが、ホテルと違い学校はどのような内容の訓練を行っているのか。

(校長)

○昨年、防災マニュアルを作成し、マニュアルに基づいて「地震」を想定した中央公園への避難訓練を行った。その際は消防官にも立ち会っていただき、避難・誘導の指導を含めた消防講話まで行った。今年4月にも同様の訓練を実施した。また、消防に限らず警察官による警察講話やDV対策講話、消費生活センターの金融トラブル対策など外部の方々をお呼びし、定期的に行っている。

(委員長)

○2-24「教員は研修・研究を行っているか」とあるが具体的な内容はどのようなものなのか。

(校長)

○研修とは、各専門分野によって違うが、研修で学んだことを授業に活用し、訓練することで学生指導が行えるようなもののことをいう。一方、研修で学んだ内容に、教員それぞれが独自性を持って学生への発信のためのメソッドを考える時間を持つことを研究と考えている。

(委員長)

○5-11「メンタルヘルスについて、相談窓口を開設する予定である。」とあり良い考えだと思うが、その窓口は校内なのか外部なのか。私自身は校内ではないほうが良いと思うが。

(校長)

○現在のところ場所は校内に設置を考えている。人知れず相談をしたいと思う学生がいるとは思いますが、相談予約はカウンセラーと直接行ってもらい、とりあえずはスタートに当たり一般的に学生たちが立

ち寄らないフロアでの実施を考えている。

(委員長)

○相談する学生には十分に気を使ってほしいと思う。

(久永委員)

○4-21「卒業1年後の就業状況を公表しているか」が個人情報のため公表できず評価「1」となっているが、個人情報を特定できない方法で公表できないのか。

(校長)

○現在、点検項目の今後の改善方策の欄に「どのように公表するのか検討する」としている。

(久永委員)

○就業状況については企業側にとっても知りたいところであり、%表示など個人情報が特定されない方法で公表してほしい。また、1年ごとの離職率で学校のイメージが悪くならないよう学校側の努力や支援をしていく指針になるのではないかと思う。

(久永委員)

○5-18「同窓会はあるか」の項目で、今後創立35年などを目途に本格的に準備室などを設置するなどしないと、なかなか実施できないままになってしまうのではないのか。今後、卒業生が集まり盛り上げていくことで素晴らしい同窓会になるのではないかと思う。また、点検項目の見直しという話が出ているが、管理運営のところに昨今問題となっている情報漏洩対策として「情報セキュリティ」や個人情報法の取り扱いなどを今後点検項目の中に入れて評価対象とすると、学校の価値観も高まると思うので今後考慮してみてもどうか。

(吉崎委員)

○「情報」の学科が職業実践専門課程の未取得となっているが、現在の進捗状況等を知りたい。

(校長)

○申請時に新規コースを設置したがために「設置したコースの最初の卒業生がでないと申請できない」ことがわかり他学科と同時に申請できなかった。今年度から申請のための準備をはじめ来年度申請に入れるようにする。また、点検項目の「企業との連携」の部分で、今年度よりインターシップを企業様へ依頼できる運びとなり、今年度の学生を充実した結果につなげていけるのであれば、ますます申請の条件が整っていくのではないかと思う。

(吉崎委員)

○以前テレビで8割が中国人・2割が日本人という高校を見たが、KBCCも留学生を今後増やしていくのであれば、留学生対象の点検項目も追加していったらどうか。

(校長)

○そもそも点検項目の設定が職業実践専門課程認定のためのものがベースとなっているため、川衛委員

の意見にもあったように、「今後は自分の学校にあった項目を作っていく必要がある」と考える。また、すでに留学生受け入れを行っているので、ゆくゆくは留学生用に見合う項目の追加も考えている。ただ、追加した項目を評価する際に、留学生用と日本人学生用と分けなければ厳密な評価を行えないのではないかという不安もあり、どのような項目にすればよいか悩ましいところである。

(吉崎委員)

○知人のIT企業がプログラマとして今年ベトナム人を2人採用したが、日本語が話せないために精神的に苦労しているように見える。KBCCで留学生のイベントなどあれば案内をしてほしい。

(校長)

○我々の認識として、IT系の外国人就労者は日本人顧客との連携を図るため、高い日本語力がないと就職できないと思っていたため、そういった採用をされたことは驚きである。こちらも、どのようなレベルで人材を求めているのか今後相談をさせてほしい。

(上野委員)

○各委員おっしゃっているが、評価項目の廃止や追加は必然のことだと思う。今後重視してほしいのが「個人情報」の項目。セキュリティの安心感を外部へアピールするためにも、法人単位で「Pマーク」の取得に向けて取り組んでみてはどうか。

(校長)

○「Pマーク」は法人単位での取得であるため即時取得は難しいところであるが、自己チェックとしての個人情報の取り扱いとして意識づけるために「個人情報取り扱い」の評価項目の見直しは必要かと思う。

(小森委員)

○評価「1」の項目がまだいくつか残っている。その中でも、6-6「地域貢献を目的とした公開講座などを実施しているか」について、昨年の「検討いたします」から今回は「外国語講座などを開講する」へと一歩前進したが、地域貢献を目的とするならば、大学などと同様に様々な講座を行い、学生以外の方々が年1回でも本校に来ていただくことで徐々に地域に認められるようになるのではないかと思いますので、もう一歩踏み込んだ目標を設定してみてはどうか。

(校長)

○校内において土曜日曜に検定試験や学生への補講が入っている。また夏休みなどの長期休暇中も高校生向けの講座が入っているなど、公開講座など全職員が関わっていくことは現状では難しいため「1」のままである。ただ、一部の職員や学生たちによる地域清掃作業のボランティア活動への参加は地道に行っている。「公開講座」と言われると現在実施できていない。また、一般的なパソコン講座を行おうとしても、すでにあちこちで開かれておりニーズがなかったりする。そこで、校内において学生たちが受講している「セレクト授業」の中で人気のあるポルトガル語や韓国語など、巷であまり行われていない外国語講座であれば本校がどのようなことを行っているのか興味の手を向けてくださるのではないかと思います、今後の方針として掲げた。

(竹下委員)

○一点目は「3 教育の実施体制」で評価が「3」になっている3項目に対して、校舎内の場所の関係もあるだろうが、来年は何とか評価「4」になるよう向けて努力をしてほしい。

二点目は、KBCCも過渡期だと思うが、「KBCCがどこへ向かおうとしているのか」、「学校として何をしていきたいのか」、外部から見ていると見えにくいので、全体的な改善も含めて取り組んでいただきたい。

(委員長)

○今の意見をもとに全体で今後も改善に取り組んでいただきたい。これまでも評価委員としてKBCCと関わってからかなりの部分が変わってきている。

(校長)

○KBCCがどこへ向かっているのかということだが、普段から「学生の利益になるもの」、「役に立てる人材に育てること」、「学んだ学生たちが張り合い・やりがいをもって仕事ができるように必要なことを身に付けさせる」を学科問わず提供できるように努力している。ただ、学科編成に関しては「学生ニーズがあるもの」とせざるを得ないところもあるが、学校として、学生のためにカリキュラム編成を行い、それに必要なことを整えていくことは今後も一貫して変わらないところである。こういった方針なども今後ご理解いただけるよう、いろいろな工夫が必要であるとは思っている。公開講座やボランティア活動含め、KBCCをご理解いただけるような努力をしていかなければならないと考えている。

(委員長)

○活発なご意見を頂いた。ありがとうございます。年に1度の自己点検評価ということで初回に比べると評価「4」に上がった項目も増えてきたように思える。すべてを評価「4」にすることは難しいと思うが、引き続き学校としても努力をしていただきたい。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべく検討することを伝え閉会した。

—以 上—

記録：富永